

手術なし！注射で受けられる

ひざ再生医療

ガイドブック

新しい
ひざ関節
治療



まつだ整形外科クリニック
MATSUDA Orthopedics Clinic



健康スポーツクリニック
MEDICAL SPORT CLINIC

はじめに

「ひざ寿命」を延ばすお手伝い 一人でも多くの方が、 自分らしく健康に。

まつだ整形外科クリニック
院長 松田芳和



医学の進歩や衛生環境の改善などで平均寿命は延伸し、人生100年時代とも言われています。一方で、心身ともに自立し、健康的に生活できる健康寿命との差は約10年もあり、その差を縮めるためには要支援の原因として最も多い関節疾患、特にひざ疾患を予防し早期に治療することが大切です。

ひざ疾患に対する治療は投薬やリハビリ、関節内注射などの保存的治療が中心となります。これを「第1の治療」とすれば、これらの治療で改善しない場合に行う、人工ひざ関節置換術などの手術治療は「第2の治療」と言えます。しかし、医学的な理由を含め、さまざまな事情が原因で手術を受けられない、もしくは受けたくない方がおられます。つまり、第1の治療で改善しないが、第2の治療を受けられない(受けたくない)方にはどうしてさしあげればいいのか。これは長年にわたり人工ひざ関節置換術を専門にしてきた私にとって、悩ましい大きな問題でした。

この問題を解決すべく「第3の治療」として、全国的にも先駆けて導入したのがこれから皆様に紹介する再生医療です。自己血液を利用する方法と脂肪由来の幹細胞を利用する方法があり、これらは厚生労働省の認可が必要となる、法に基づいた治療です。魔法の注射ではありません。しかしながら、劇的に改善し、生活の質が向上し人生が変わった方も多くおられます。現在では「第1の治療のオプション」として早期の段階から再生医療を行う重要性もわかってきております。再生医療を通じて一人でも多くの方々の「ひざ寿命の延伸」のお手伝いをさせていただきたいと思います。

再生医療をお届けしたい方

1

アスリートなど運動をしている方

ひざの問題を緩和し、スポーツで満足のいく成果を出すために

体を動かすうえで重要な関節であるひざ。予防や早期治療でトラブルや故障を回避し、ずっとスポーツを楽しみ、成果を出したい方、手術を受けずにスポーツを続けたい方に。



2

お仕事を頑張っている方

早期発見・早期治療で自分のひざを大切に

レントゲンでは見つからない異常を MRI 検査で早めに発見し、痛みで歩行やお仕事に影響が出る前に治療。日常生活に支障はないが、少しひざが痛い、治療のために長期入院はできない方に。



3

ひざ痛で悩んでいる方

今あるひざの悩みを解消するための、新しい治療として

新しい治療の選択肢として、ぜひ一度ご相談ください。
ひざの治療をしているけれど望んだような効果が出ていない、より効果を望む方に。



このようなケースの方です



- ☐ 正座ができない
- ☐ 曲げ伸ばしに違和感や痛みがある



- ☐ 歩行や、走ることに難しさを感じる
- ☐ 階段の上り下りがつらい



- ☐ よくひざに水がたまる
- ☐ 新しい治療法を試したい

ひざが大切な理由

Point 1

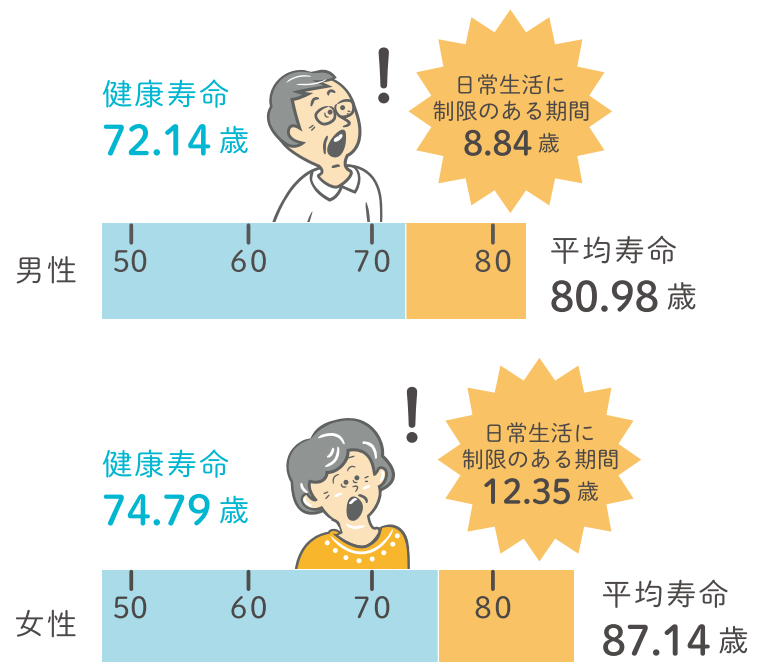
ひざ寿命を大切にすることは健康寿命を延ばす鍵！

介護などに頼らず自立した生活ができる期間である「健康寿命」は男女とも70代です。そこから寿命まで、日常生活で介護などが必要となる期間が約10年もある事になります。元気に過ごすには寿命ではなく「健康寿命」を延ばす事が大切です。

ではどのように「健康寿命」を延ばす事ができるでしょうか？ 例えば、「立つ・歩く」など日常の基本動作ができることはとても大切です。

そのためにひざを健康に保つことが、自分らしく健康に過ごす一つの鍵になります。

つまり「ひざ寿命」を延ばす事が「健康寿命」を延ばす事につながるのです。



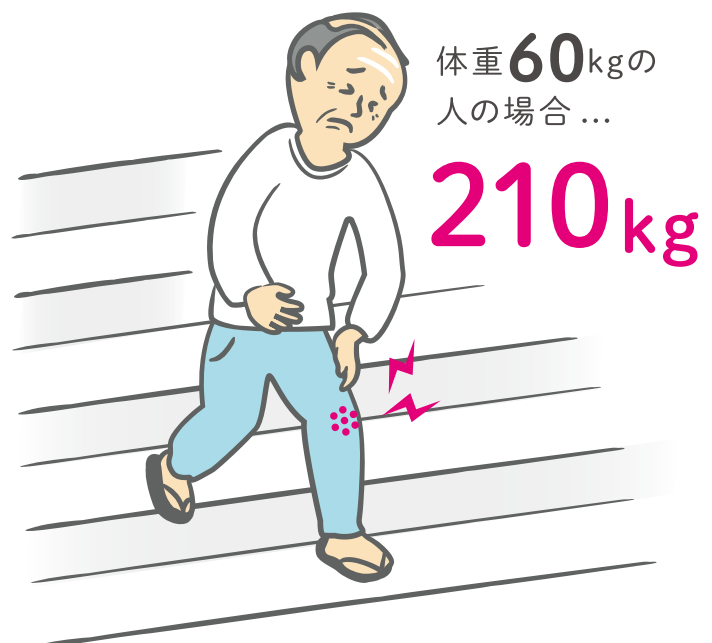
※出典：平成30年版高齢者白書（内閣府）

Point 2

スポーツ、仕事、日々の生活を支える身体^{かなめ}の要

ひざは体重を支える重要な関節で、非常に大きな負荷や衝撃が加わる関節でもあります。歩くときは体重の約2.6倍、下り階段では約3.5倍、走ったりジャンプしたりするとさらに大きな衝撃を受けます。これらの負荷に耐え、衝撃を和らげる役割がひざ関節やその周りの筋肉にはあります。

つまり、ひざが円滑に機能することで、日常生活の自由や、スポーツのパフォーマンスを得る事ができるのです。好きなスポーツを長く続けたり、日々の生活を元気に過ごすためにも、ひざはとても重要です。



ひざを大切にする方法

ひざを大切にするために、できること、して欲しいことのご紹介。

生活習慣の改善



運動

適度な運動は関節が硬くなるのを防ぎ、筋力はひざ関節をサポートします。また、運動により炎症をひきおこす物質の誘発を抑えたり、痛覚が過敏になることも防ぎます。



食生活

健康的な食生活を心がけ、適正体重でいることはひざにも重要です。例えば、体重が1kg 増えると、ひざには3〜7kgもの負荷がかかります。肥満は変形性ひざ関節症のリスクを高めます。

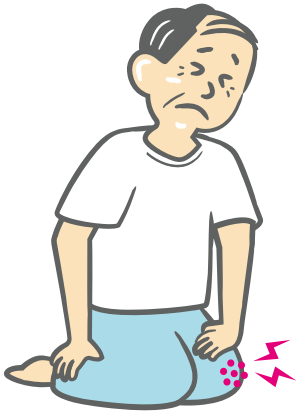


無理をしない動き

例えば、階段の上り下りでは手すりを使う、痛むときには正座をしないなど、ひざが痛い時はもちろん、予防としても「無理をしない・負荷をかけない」動きを心がけることも大切です。

予防的観点でチェック！

予防の意識をもつことが大切です。早期に異常を発見できれば、治療の選択肢が多くなり、病状の進行も効果的に抑えられます。
痛みがなく、レントゲンなどで分からなくても深刻な病状に発展することがあります。「ポキポキ音が気になる」「違和感がある」など、気づいたら早めの対応を心がけましょう。



早めの相談、早めのケア

ひざ疾患の中には、一度発症すると元に戻すことができない厄介な疾患もあり、予防と早期発見が本当に大切です。まっただ整形外科クリニックではひざの不安やケアを総合サポートしていますので気軽にご相談ください。

予防をサポート	早期発見のための専門検診「ひざドック」
みまもりサポート	理学療法士による“ひざの健康”サポート
食生活をサポート	健康食カフェ「Cafe matsubokkuri」

→ 詳しくは、P12へ！

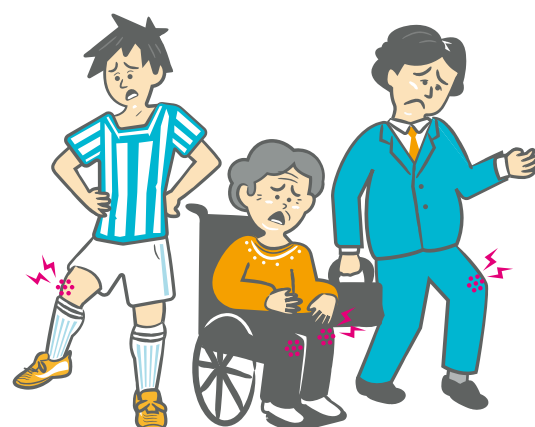
ひざのこと気軽にご相談ください



ひざの痛みと変形性ひざ関節症

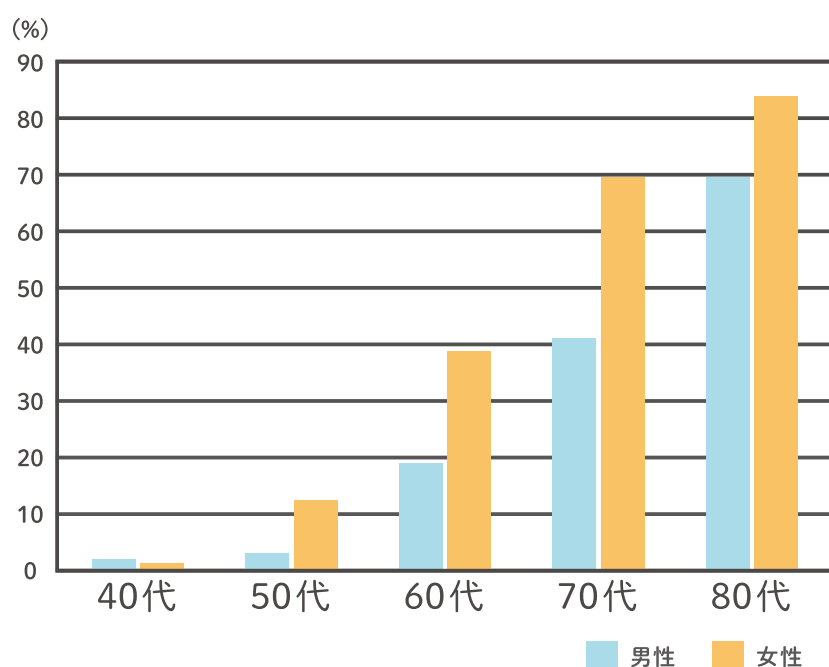
ひざの痛みの原因には加齢、肥満、若い頃のひざへの外傷など、さまざまなものが考えられます。そして数あるひざ疾患の中でも多く見られるのが変形性ひざ関節症です。

変形性ひざ関節症とは、関節のクッションである軟骨や半月板が擦り減り、骨が変形する病気です。
日本では現在、自覚症状が無い人を含めると3,000万人、実際に治療が必要な患者様は1,000万人いるともいわれています。
また、女性の発症率が高い病気でもあり、男性に比べ女性患者が1.5～2倍の割合となっています。



変形性ひざ関節症の年齢・性別割合

60代になると約30%もの人がなっている病気なんですね！



女性は筋肉量が低めなことや、脚に横揺れの力が加わりやすい身体的特徴、女性ホルモン減少による骨粗鬆症などとの関係が考えられます。



※ 出典「古賀 良生 編集：変形性膝関節症 - 病態と保存療法・南江堂, 2008」

変形性ひざ関節症の原因は？

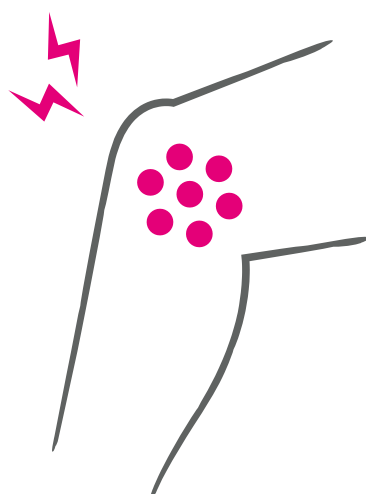
発症の原因や進行の理由は一つではなく、さまざまな要因が関係していると考えられています。

加齢

性別（男性＜女性）

肥満

O脚



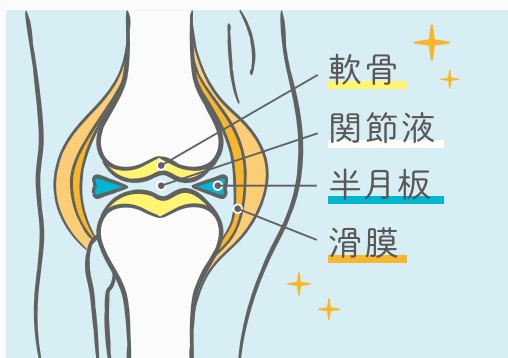
遺伝

負担の大きい
仕事・生活

過去の外傷や病気

症状と進行

1 健康なひざ関節



ひざ関節は、大腿骨(太ももの骨)、下腿骨(すねの骨)、膝蓋骨(お皿の骨)の3つの骨と軟骨、半月板などのクッション材、大腿四頭筋という身体の中で一番大きい筋肉からできています。健康なひざ関節では、衝撃を吸収し体重を支える役割があります。

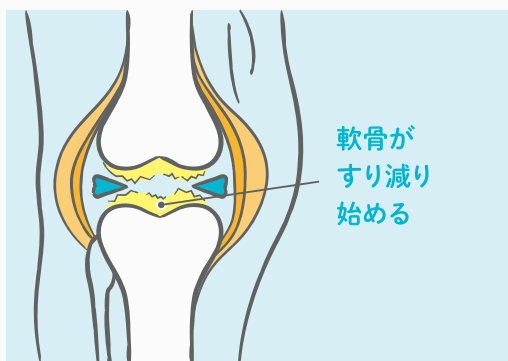
下にある症状をぜひ
チェックしてみてください。



2 初期の変形性ひざ関節症



この時期に MRI で発見！
早期治療で進行を抑える事が大切です！

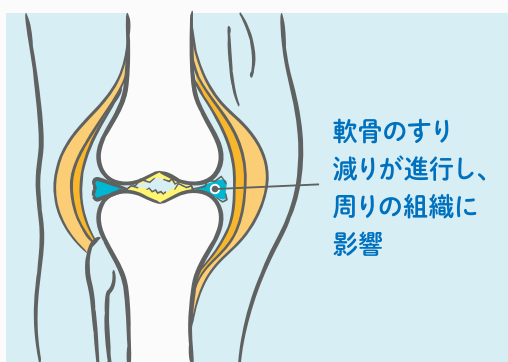


軟骨がすり減り始めます。それにより昔と比べひざが伸びにくい、曲がりにくい「ひざ関節可動域の制限」やひざに力が入りにくい「筋力低下」を感じることがあります。日常動作では、歩いたり立ち上がった際、ひざに違和感を感じ始めます。

症状

- ☐ ひざがこわばる
- ☐ 歩き始めが痛い
- ☐ 正座すると違和感がある

3 進行期の変形性ひざ関節症

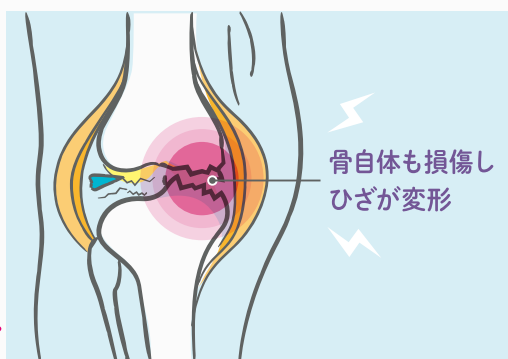


軟骨がさらにすり減り関節の隙間が狭くなり、O脚やX脚の状態に。見た目にも変形性ひざ関節症が分かるようになります。ひざ関節可動域の制限と筋力低下も進行し、ひざが完全に伸びなくなったり、立ち上がりが大変になります。この時期には、ひざが外に動揺する歩行の現象が見られる事もあります。

症状

- ☐ 階段の昇降が痛い
- ☐ 脚の曲げ伸ばしが
つらい
- ☐ ひざに水がたまる

4 末期の変形性ひざ関節症



軟骨が完全になくなり、関節の隙間がなくなります。ひざ関節可動域の制限がさらに進行し、ひざをほとんど動かせなくなります。この状態になると、じん帯を損傷している可能性もあり、歩く際には杖が必要となる場合があります。

症状

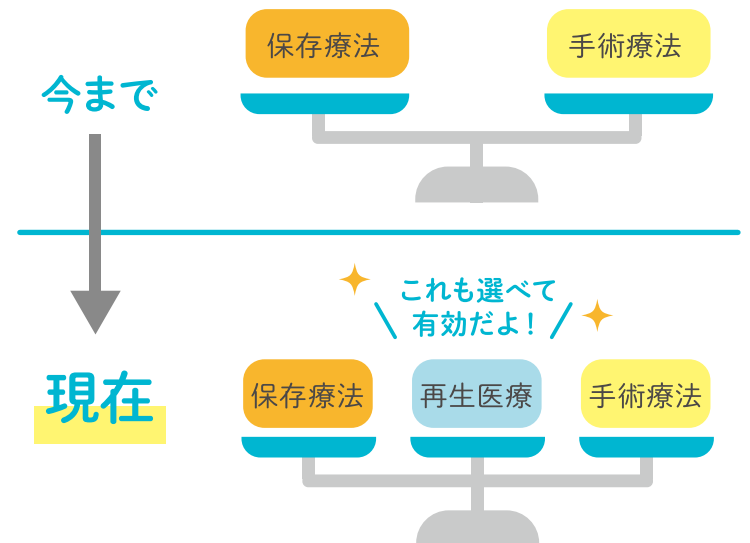
- ☐ 平地の歩行も痛い
- ☐ 動かない時も
(寝ていても)痛い



再生医療の種類と効果

一度すり減ってしまった軟骨が元に戻ることはほぼありません。そのため、今までは服薬やヒアルロン酸注射などで痛みを抑えたり緩和したりする『保存療法』か、手術により関節を人工関節に置き換える『手術療法』しかありませんでした。

しかし近年、血液や細胞の自己修復機能を使った『再生医療』が登場。従来の治療法では望むような効果が得られなかった方、手術を受けられなかった方、将来のひざ痛を予防したい方に『新しい選択肢』が誕生し、治療の可能性が広がりました。



★ \ NEW / ★

保存療法

服薬

痛みや炎症を抑える消炎鎮痛剤を服用することで、一時的にひざの痛みを和らげる。

■メリット

- ・保険適用
- ・ポピュラーな治療法
- ・使用しやすい

■デメリット

- ・痛みは軽減できるが軟骨の修復はできない
- ・長期服薬で副作用のリスクがある
- ・効果が限定的で、服薬をやめると症状が再発することがある

ヒアルロン酸注射

直接ひざ関節にヒアルロン酸を注射することで、衝撃を和らげるクッションの役割を果たす。

■メリット

- ・保険適用
- ・ポピュラーな治療法
- ・副作用がほとんどない

■デメリット

- ・痛みは軽減できるが軟骨の修復はできない
- ・進行したケースでは効果が期待できない
- ・効果は短期間のことが多く、頻回の通院(注射)が必要になる

リハビリ

リハビリを行い、関節可動域の改善、筋力が向上することでひざ痛の軽減が期待される。

再生医療

ASC 療法

自分の脂肪から、抗炎症作用と痛みの緩和が期待できる幹細胞を培養・増殖させ、ひざ関節に注射する治療。

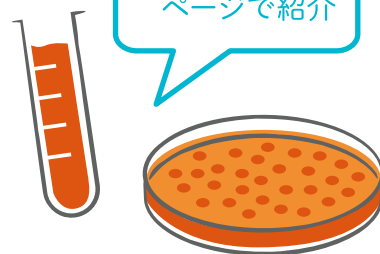
FD2.0療法・FD療法

自分の血液から、治癒力を持つ血小板を活性化させてより多くの成長因子を抽出し、ひざ関節に注射する治療。

APS 療法

自分の血液から、炎症を抑える良いタンパク質と軟骨を守る成長因子を高濃度抽出し、ひざ関節に注射する治療。

▶ 詳しくは次のページで紹介



手術療法

人工関節置換術

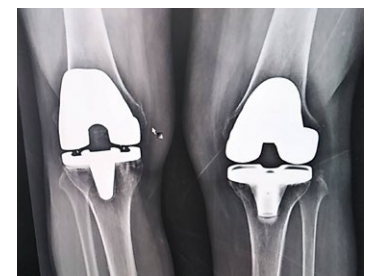
傷んだひざ関節の表面を取り除き、金属やプラスチックでできた人工の関節に外科手術で置き換える。

■メリット

- ・痛みを大幅に軽減する根本的な治療となりえる
- ・O脚の場合、脚が伸びて姿勢も改善する

■デメリット

- ・痛みは軽減できるが軟骨の修復はできない(細菌感染、血栓の発生、手術中の出血、骨セメントによる負担など)
- ・手術には3～4週間の入院と、その後のリハビリが必要になり仕事などに影響しやすい

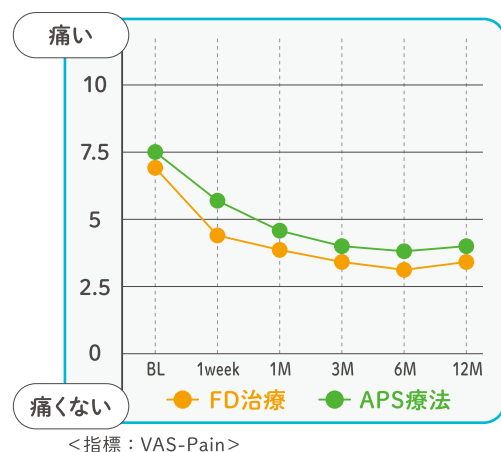


▲ 人工関節置換術を受けたひざ
(白色部分が人工関節)

ひざ再生医療の効果

新しい治療分野である再生医療は、治療法とあわせ、効果についても継続的に研究がされています。当院で行われた治療経験を元に、治療の効果をご紹介します。

◎ 痛みの回復



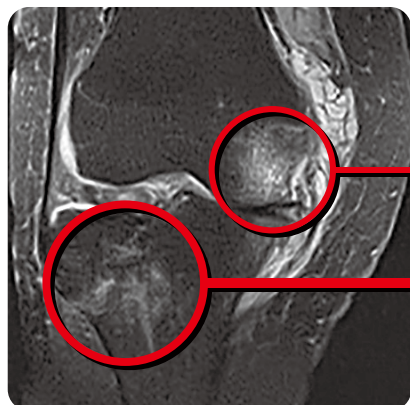
注射前と注射後1週、1・3・6・12カ月の痛みを数字で表しています。FD注射、APS注射ともに1カ月経過すると注射前の痛みからほぼ半減しています。

◎ 治療による改善効果

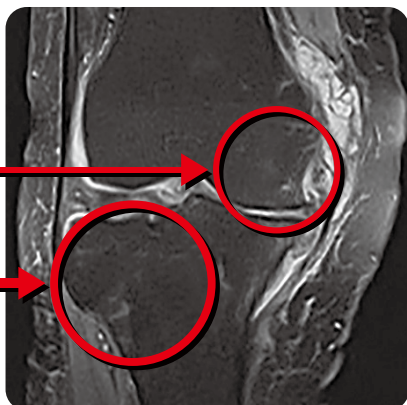
- | | | |
|------------------|--------|---|
| ① ADL 日常生活 | 10% 改善 | 日常生活動作、運動機能、生活の質、症状、痛みという5項目から、ひざの状態を評価 (KOOSスコア) しています。注射後12カ月経過しても注射前の状態よりも改善しています。 |
| ② Spo&Rec 運動機能 | 15% 改善 | |
| ③ QOL 生活の質 | 18% 改善 | |
| ④ Symptoms 症状 | 12% 改善 | |
| ⑤ Pain 痛み | 18% 改善 | |

◎ 事例(91歳の女性で重度の変形性ひざ関節症)

治療前



治療後



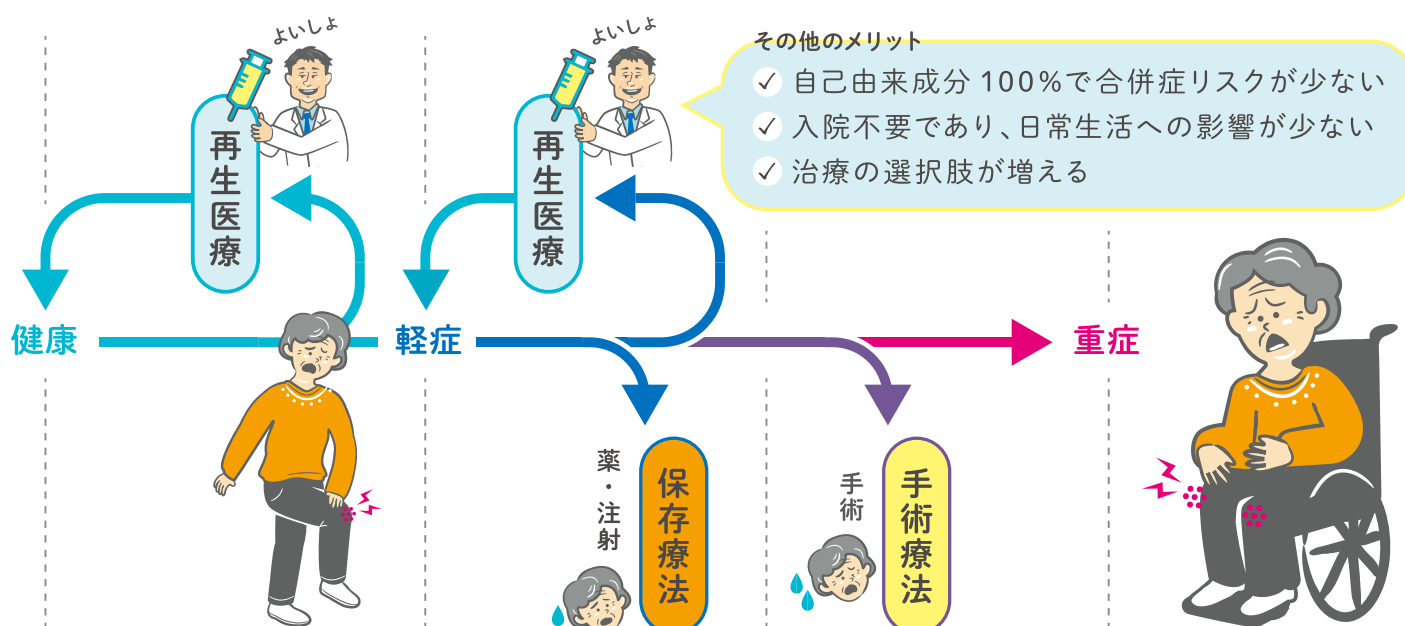
FD注射後12カ月で骨髄浮腫(骨髄の炎症などを意味する)赤丸の部分がほぼ消失しています。組織修復作用の効果だと考えられます。

長期にわたり疼痛緩和や機能改善が維持できること。画像所見においても組織の修復が期待できるのは、ヒアルロン酸注射では得られない大きな特徴です。



予防や回復を目指す新しい治療法！

『再生医療』は、回復が難しいとされているひざの症状悪化を食い止め、機能回復(悪化前の状態に近づけること)を目標に研究や治療が進んでいます。また、予防として取り入れることで「ひざ寿命」の延伸につながると考えています。



それぞれのひざ再生医療の特徴

『再生医療』は患者様ご自身の血液や幹細胞などを、厚生労働省認可の細胞加工センターで人工的に加工、培養し、ひざ関節内に注射することで、病気やケガの治癒を目指す治療法です。変形性ひざ関節症の治療でも高い効果が期待されています。当院では患者様一人ひとりに合った治療をお選びいただけるように、3種類の再生医療をご用意しています。

2次元バーコードを携帯などで読み込むと「FD療法」の施術をご覧いただけます。

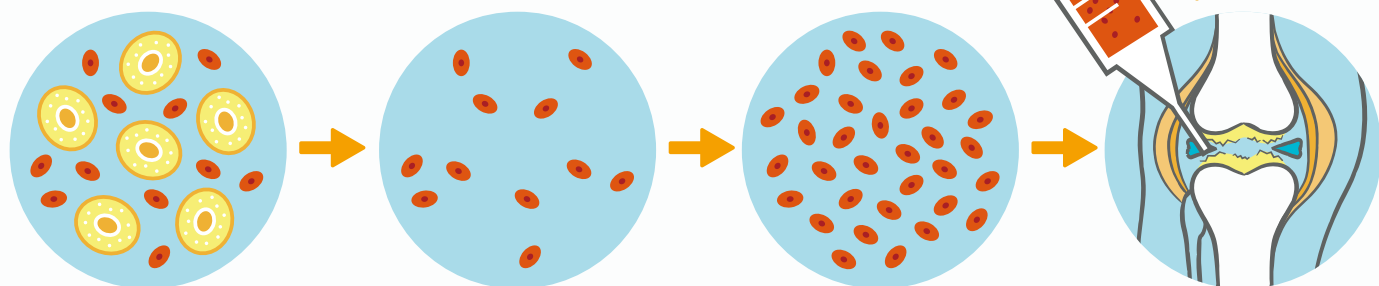


再生医療 1 「脂肪幹細胞」

ASC療法（ブロック法）

患者様ご自身の脂肪から幹細胞を抽出、それを培養してひざ関節に注射する治療法です。脂肪幹細胞は、炎症を抑える作用と組織を修復する作用があることが分かっています。また、軟骨の厚みが増したという症例も確認されており、軟骨の再生機能についても研究が進められています。

軟骨が再生する可能性を秘めた最もポテンシャルの高い治療方法です。注射後3～6カ月程度から効果を感じる方が多いようです。



① 腹部からご自身の脂肪細胞を採取（1時間程度）

② そこから脂肪幹細胞を抽出

③ 脂肪幹細胞を200～300倍に培養（培養と検査に7週間程度）

④ ひざに注入（約1,000万個の細胞を投与）



幹細胞とは？

もともと体の中にある細胞で、自分のコピーを作る複製能力と、骨・軟骨・脂肪細胞などいくつかの異なった細胞に分化する能力があります。これをどのように活用するか、さまざまな分野で注目されています。

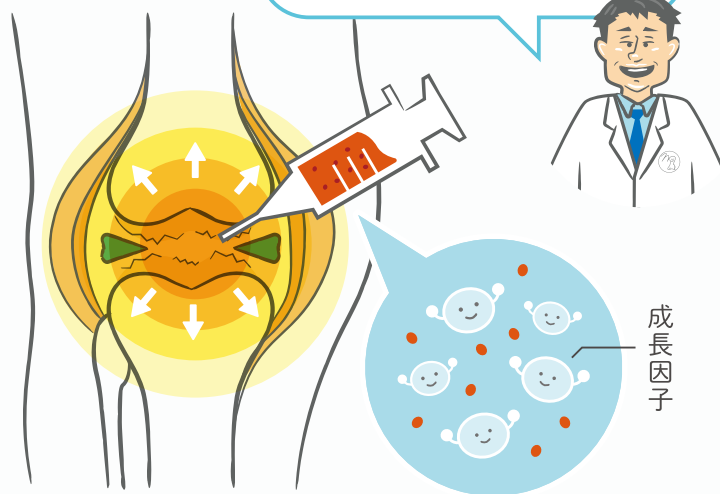
FD2.0療法・FD療法

患者様から約50mlの採血を行い、清浄度の高い再生医療センターにて特殊な技術でより多くの「成長因子」を抽出し無細胞化したうえで、フリーズドライ加工されて当院に届きます（注射2本分）。これを関節内に注射することで痛みを和らげ、損傷部位の機能改善をめざします。

当院では治療効果を考慮し、1度の治療で1関節内にFD注射2本分を注射しています。

FD注射は加工が必要なため、採血から注射までには約3週間程度かかります。

組織を修復する作用が特徴で、MRIでみられる骨髄浮腫などの異常所見が消失するケースもあります。注射後の痛みや腫脹も少なくひざに優しい注射です。



成長因子とは？

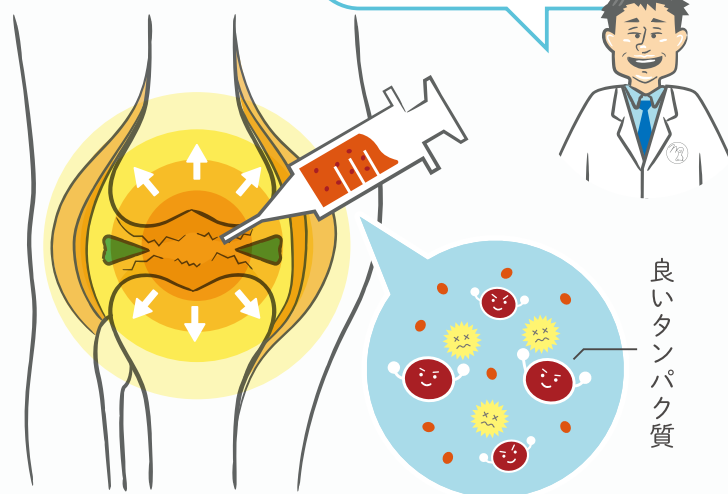
特定の細胞の成長や増殖を促進するタンパク質の総称で、傷を治す・新陳代謝を促進する・自律神経のバランスを整える・抗ウイルス作用など健康に関するさまざまな役割を担っています。

FD2.0療法はFD療法に比べより多くの成長因子が含まれているので、高い治療効果が期待できます。

APS治療

FD療法と同じく患者様から約55mlの採血を行い、当院にあるAPS加工専用機器にて炎症を抑える良いタンパク質と成長因子を高濃度抽出し、これを関節内に注射します。APSは関節内の炎症物質と抗炎症物質の不均衡を整える作用があり、痛みを和らげ軟骨の変性や破壊を抑えます。APSは当院で採血、加工、注射を行うため、採血後約1時間で治療が終了します。

抗炎症作用が特徴です。繰り返す水腫や強い痛みがあるケースで効果が期待できます。注射後に痛みや腫脹をきたすことがあります。



予約・申込から治療までの流れ

step 1

予約 | 再生医療専用コンシェルジュが対応

当院では専用の再生医療コンシェルジュが、最初の予約から最後の経過観察まで丁寧にご案内いたします。
まずは再生医療コンシェルジュにご相談ください。

TEL:048-598-7400 (再生医療専用受付:月~金 9~18時、土 9~17時)



step 2

検査・診察・適性判断

当院にてMRI検査と医師の診察でひざの状態を詳しく把握し、治療歴などを伺いながら再生医療の適性を判断します。

血液由来
FD2.0療法・FD療法とAPS療法

脂肪由来幹細胞
ASC療法

step 3

血液採取

血液を約50~55ml採取します。



step 4

生成・加工

<生成・加工に必要な時間>

- FD2.0治療 … 3週間程度
- FD注射 … 3週間程度
- APS注射 … 当日1時間程度



step 3

脂肪採取（ブロック法）

局所麻酔を使用し、腹部などから皮下脂肪（脂肪組織）を約100mg (0.1mL) 採取。
1時間程度で当日の処置は終わります。

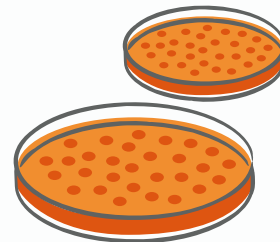
step 4

抽出・培養

専門機関により脂肪から幹細胞を抽出し200~300倍に培養します。

<培養に必要な時間>

- 7週間程度



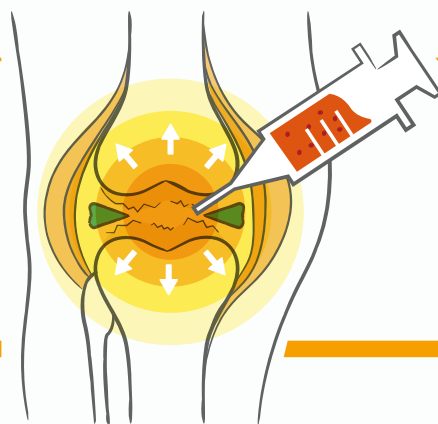
step 5

治療（注射）

医師によりひざ関節内に注射します。

- 治療時間…5~10分

治療後は医師から説明やカウンセリングがあります。



step 6

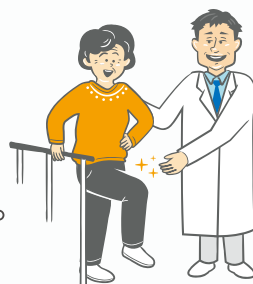
7回の経過観察 (1週間・1カ月・3カ月・6カ月・12カ月・24カ月・36カ月)

ひざの状態を確認するため、定期的に診察を行います。

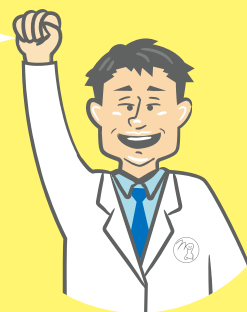
治療後も、より理想的な状態を目指し、患者様に寄り添ったケアを続けます。

当院では日常での快適な動きや、本格的なスポーツへ向けたリハビリも可能です。

経過観察の診察は完全予約制ですので、お待たせいたしません。



“まつくり”のイトコロ!



私たち、まつだ整形外科クリニック(愛称「まつくり」)が大切にし、力を入れているポイントを紹介します。

1

患者様に優しいクリニックであること 患者様にレベルの高い医療を提供すること

当院は2010年5月に開院しました。
開院当初より、「患者様に優しいクリニックであること」、「患者様にレベルの高い医療を提供すること」を大きな柱にしております。
この再生医療はまさにレベルの高い医療の提供の1つと考え、埼玉県北部で最初にスタートさせました。

3

ひざ治療をプロ集団がトータルサポート

まつくり“ひざ関節徹底治療プラン”

変形性ひざ関節症の痛みを根本的に解決するため、医療とスポーツと食を通して徹底的にサポートし、「ひざ寿命の延伸」を図るプランです。

再生医療

リハビリ

インソール

スポーツ

食



当院のインソールは歩き方、身体のバランスを確認しながら、専門の講習会を修了した理学療法士が作成致します。

2次元バーコードを携帯などで読み込むと「インソール」についての動画をご覧いただけます。



2

理学療法士によるひざの健康を“みまもりサポート”

当院では、再生医療を希望された方全員に理学療法士が行う『ひざ健康測定』でひざの健康をサポートしております。

『ひざ健康測定』は注射前と注射後(6カ月、12カ月、24カ月、36カ月)で定期的に行い、ひざの柔軟性、筋力、エコー検査でひざの状態に合ったトレーニングメニューをお伝えしています。

なお、注射前と注射後6カ月で行う『ひざ健康測定』は無料で受けていただけます。

注射前から注射後のサポートまでの流れ

注射前のひざ健康測定



1週間後、1カ月後、3カ月後

● 診察



6カ月後、12カ月後、24カ月後、36カ月後

● MRI検査
● 診察
● ひざ健康測定



4

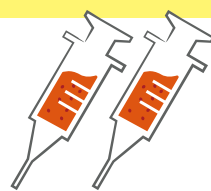
早期発見のための“ひざドック”

加齢に伴い発症が多くなる変形性ひざ関節症の早期発見、病状の進行予防を目的とした当院独自のひざ予防健診です。検査内容は、MRI撮影による精密検査と理学療法士による身体機能チェックです。



5

関節内カクテル療法



当院独自の治療方法

FD2.0療法とASC療法を一定期間内に行います。まずはFD2.0療法でひざ関節内の状態を良くしたうえで、ASC療法を行います。それぞれを別々に受けるより費用は安価に設定しております。

半月板を切った自分が 手術なしで回復するまで

治療歴： 右ひざFD療法2回（2019年3月・2019年7月）

症 状： 右ひざ半月板断裂

秋本 真吾 さん 30代
元陸上競技選手・スプリントコーチ



手術を告げられ 込み上げてきた納得できない思い

半月板を切ったのは、中学校で開催した陸上教室のデモンストレーションでハードルを飛んだ瞬間でした。踏み切った右足にバキッと音がしたのを感じ、そこからはもう足を引きずって歩くような状態に。陸上選手を引退して以降、走るたびに痛みの兆候があった右ひざの半月板が、強い衝撃によってついに切れてしまったんです。

はじめは地元で評判の医者にかかったのですが、そこではレントゲンや MRI などの検査のために時間がただ過ぎていくことにもどかしさを感じ、ようやく結果が聞けたときには「半月板に十字の亀裂が入っています。手術が必要なので紹介状を書きます」と告げられ、飲み込めない気持ちでいっぱいになったのを覚えています。



驚くほど回復を実感 再生医療を選択できる人を増やしたい

長期間の治療を強いられる手術だけは避けたかった自分にはヒアルロン酸注射しかなく、痛みや症状の根本的な解決が見いだせずにいました。その状況を打破してくれたのが自己血液による再生医療「FD注射」でした。

驚いたのは、FD注射を打った夜のストレッチが既にスムーズだったこと。さらに翌朝ジョギングをしてみると痛みの軽減や動きから明らかな回復を実感しました。より効果を高めるために受けた2度目の注射で痛みはほぼ無くなりました。治療から1年後にはアジアマスターズという陸上大会に出場して金メダルを獲得。手術を突き付けられた時を思えば「こんな奇跡があるの?」と改めて驚きと感動を覚えました。

今回の治療は、選手のコーチングをする自身の仕事にも役立つ経験となりました。似た症状で苦しむ人に自身の体験を話すことで、再生医療の存在が広まって、納得のいく治療や効果を得られる人が増えることを心から願っています。



まだ働きたいという思い 再生医療が応えてくれた

治療歴： 両ひざASC療法+両ひざカクテル療法（FD+ASC）

（ASC2021年3月・FD2021年10月・ASC2022年1月）

症 状： 両変形性ひざ関節症（両ひざ内側半月板損傷）

戸塚 祥治 さん 60代

大工



大工として50年 仕事の積み重ねでひざ痛が悪化

18歳から大工に就いてかれこれ50年近くになります。職業柄、重たいものを持つことや、無理な体勢になることが多く、ひざに負担がかかっていたようです。もともとO脚だったこともあり、左ひざの半月板を損傷しました。

初めは地元の病院にかかっていたのですが、快方に向かうことはなく、触るだけでも痛みを感じるほどに。知人に紹介された別の病院で内視鏡による手術を受けたものの、良くなるどころかさらに痛みが悪化しました。そのうえ、左ひざをかばっていたせいか、右ひざのO脚が進み、痛みが出るようになったのです。ひざに水がたまり、腫れもひどくなりました。

ひざの水を抜くため週に2回通院することになり、大工の仕事にも支障をきたすようになりました。病院からは再手術を提案されましたが、そうすると長期的に仕事を休まなければなりません。「他に治療法はないのだろうか」と模索していくうちに、再生医療の存在を知ったのです。



再生医療専用コンシェルジュとの打合せ

状況に応じた柔軟な治療で 充実した日々を取り戻す

私の場合、他の病院では「再生医療は効果がない」といわれていましたが、松田先生は、脂肪幹細胞を使った「ASC療法」を提示してくれました。ただ、正直にいうと半信半疑で、痛みが半分とれば御の字だと考えていたのです。

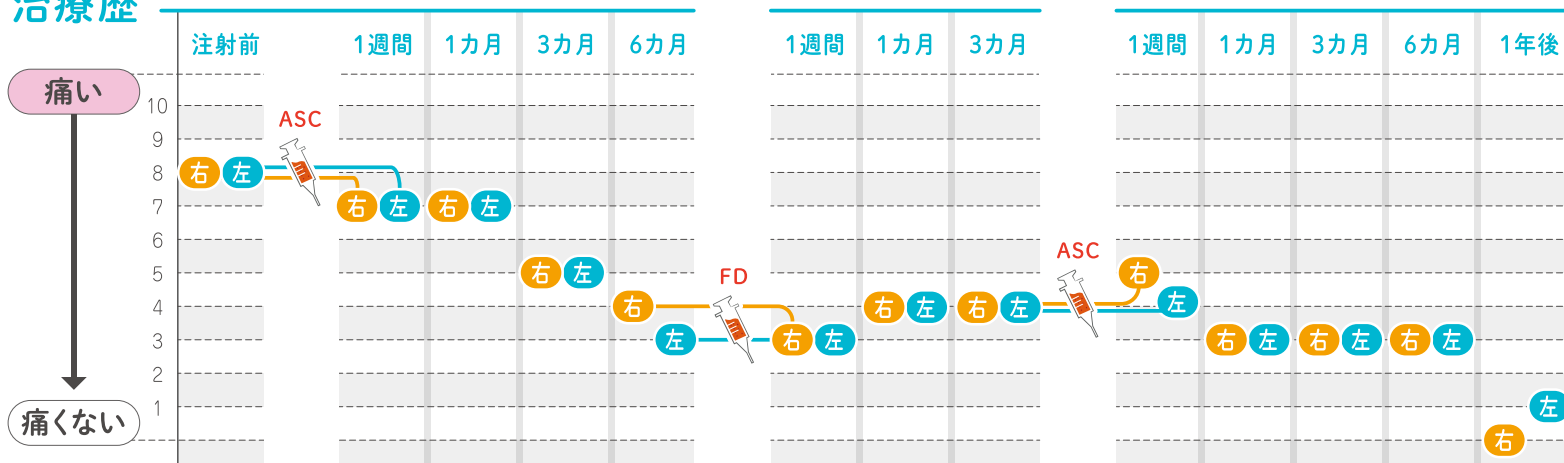
1回目の治療では大きな効果を得られなかったのですが、自己血液による「FD療法」を組み合わせたカクテル療法を実施。こうした柔軟な治療ができるのもまつだ整形外科クリニックならではの魅力です。最初の治療から約6カ月後にFD療法、その後2回目のASC療法を行うと、痛みが改善されました。

左ひざは多少の痛みは残っていますが、以前に比べると快調な毎日です。現在は1年に1回の通院で済んでいます。働く身としては、ひんぱんに通院する必要がないのはありがたい限りです。再生医療を受けたことで、今もバリバリの現役大工！あと10年は現場仕事を続けるのが願いです。元気なひざで趣味のバイク也大いに楽しみたいと思っています。



理学療法の実施

治療歴



手術以外の選択肢で 人生が大きく変わる喜びを実感

治療歴： 右ひざASC療法（2020年11月）
症 状： 右変形性ひざ関節症／右ひざ内側半月板損傷

前川 輝子 さん 70代
専業主婦



ひざの痛みが悪化して 仕事も家事もままならない

嫁ぎ先がこんにゃくの製造・卸業を営んでいたもので、ひざに負担がかかる重い物の上げ下げや、コンクリートの上で長時間にもおよぶ立ち仕事を毎日やっていました。その影響で右ひざが少しずつ痛くなり、次第に仕事はもちろんのこと、家事もままならなくなり、日常生活に支障をきたすようになってきました。

病院で飲み薬と塗り薬をもらい、ヒアルロン酸注射も行いましたが、一時的に痛みが緩和するだけで、根本的な解決にはなりません。なんとか治したいという思いを抱え、さまざまな病院をはしごする日々。よい病院があると聞けば、地元の高崎市から東京まで通ったこともありましたが、結果は同じ。最終的にはどの先生からも手術を勧められました。

手術だけではどうしても避けたかったので、それ以外の選択肢を提案してくれる医療機関を片っ端からしらみつぶしに探したところ、行き着いたのがまつだ整形外科クリニックです。



松田院長の診察

毎日をアクティブに 笑顔にさせてくれた再生医療

再生医療についてはテレビなどで見聞きしていましたが、松田先生が丁寧に説明してくれたので不安はなかったです。また「コンシェルジュ」と呼ばれる専任スタッフの方が常に寄り添ってくれたのが心強く、安心して治療を受けられました。

治療開始から1、2週間ほどで朝起きた時のひざの痛みが楽になり、3カ月の検診の頃には痛みがほぼなくなりました。今ではひざの痛みがあったことを忘れるほどです。

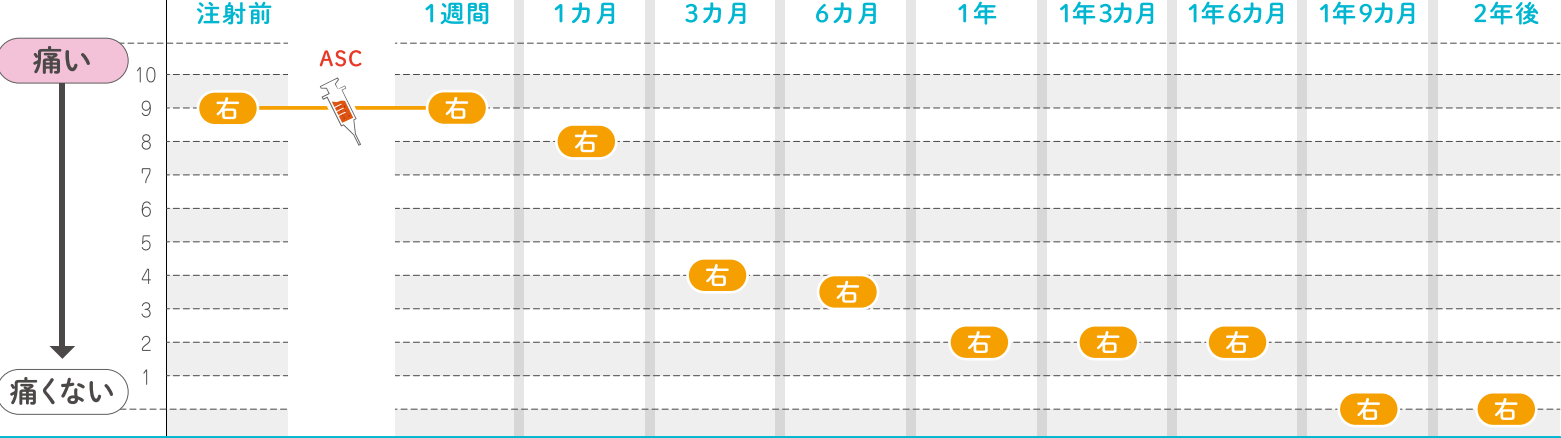
現在は月に1回、リハビリのため通院しています。定期的に行う「ひざ健康測定」では、筋力や柔軟性の結果を数値化して示してくれるので、目にみえて変化を実感でき、リハビリのやる気につながっています。ウォーキングやプールにも通って筋力アップにも努め、体が軽くなりました。

10年ほど前までは気分が沈みがちだったのが、今では嘘のようにアクティブになりました。再生医療で人生が180度変わったといっても過言ではありません。これからは大好きな旅行を、主人と楽しみたいです。



ひざ健康測定

治療歴



再生医療がくれた クオリティオブライフ

治療歴： 両ひざFD療法（左ひざ2019年10月／右ひざ2020年1月）

症 状： 右ひざ半月板損傷／左ひざ半月板損傷

安西 仁美 さん 50代
管理栄養士

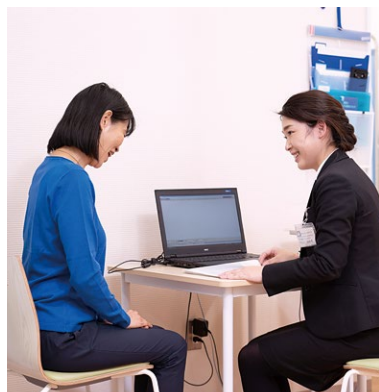


忙しくも充実した毎日 蓄積された疲労が生んだひざの不調

子どものサッカーをきっかけに、ママ友達と自分たちのサッカーチームを結成し活動していたのですが、30代後半で靱帯を損傷し、再建手術をしました。回復後は再び仕事・子育て・スポーツと、忙しくも充実した毎日でしたが、数年たつと、靱帯のけが以降不調だった半月板が痛みだし、初期の変形性ひざ関節症と診断されました。

「いつかはケアをしなきゃ」と思いつつ、長い間テーピングでごまかしていたひざは、軽いランニングでも痛み、ヒールを履くと違和感を感じるようになりました。「まだサッカーを楽しみたいし、ヒールを履く機会もある。何より、一生歩ける身体でいたい!」。それが再生医療を受けようと思った理由です。

入院も手術も不要なこの治療は、子育てと仕事で時間の無かった私でも受けやすく、院長先生はじめスタッフの方々の温かさや、専任の再生医療コンシェルジュにいつでも相談できる環境に大きな安心感もありました。



ひざ再生医療をきっかけに からだ全体の健康を改善

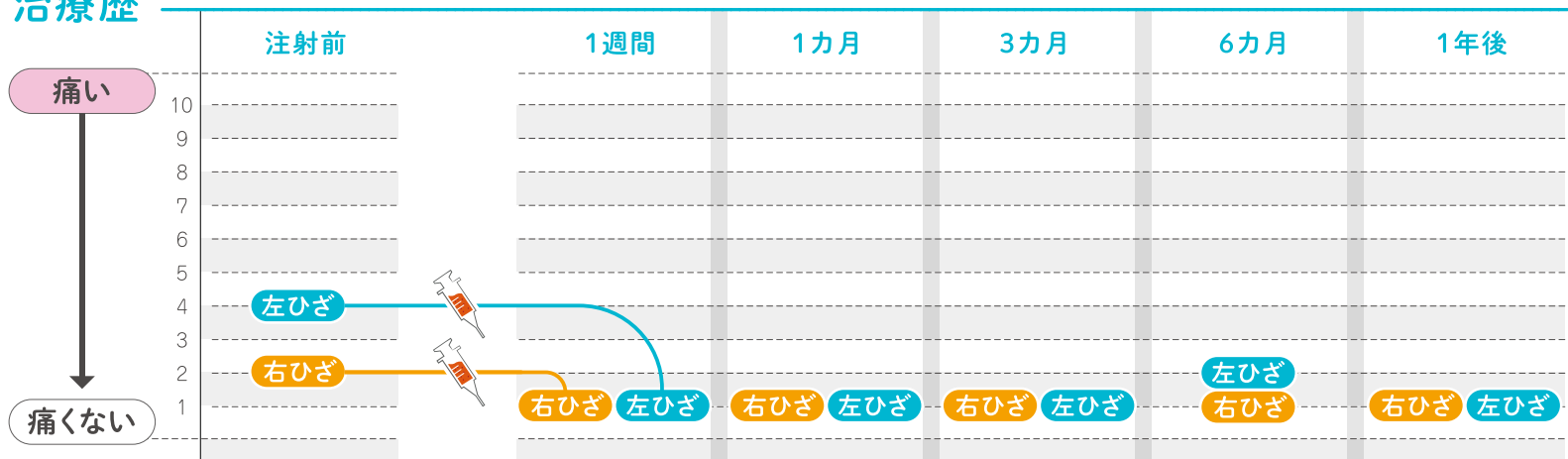
私の場合は再生医療と同時に、運動と生活習慣の見直しも行いました。運動面では併設のスポーツクリニックのパーソナル指導で、正しい知識と筋力・バランス感覚を身につけ、生活習慣では睡眠などを見直したことで体質改善につながりました。すると、ひざの状態はみるみる改善し、健康全般の良いサイクルも生まれたのです。

管理栄養士という仕事柄、運動や生活習慣のアドバイスをするのですが、今回の治療をきっかけにその大切さを自分の体で実感できたのも良い経験になりました。

無理してきた、頑張ってきた体だからこそ、立ち止まり見直せば、また自分で良いコンディションが作れる。人生の折り返し。再生医療を受けたことで、これからの人生がとても楽しみです!



治療歴



年齢を理由にあきらめなくていい 再生医療の可能性

治療歴：FD療法（右ひざ2020年2月／左ひざ2020年9月）
症状：両ひざ：変形性ひざ関節症／半月板損傷

山口 政枝 さん 70代
趣味：ゴルフ

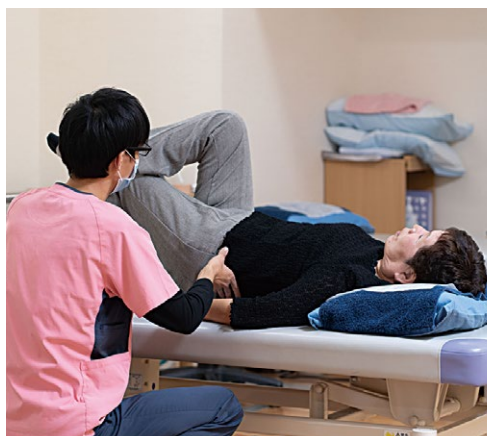


突然のひざの痛みで 立っていることさえ困難に

初めてひざに痛みを感じたのは1年ほど前です。ゴルフのラウンド中、突然右ひざにズーンとした痛みが走りました。そこで我慢してプレーを続けたせいか、帰宅後にはズキズキとした痛みに変わり、歩けなくなりました。

すぐに近所の整形外科を受診したところ「ひざに水が溜まっている」と診断。それから溜まった水を抜き、ヒアルロン酸注射を打つ対処療法を3カ月間続けましたが効果はいつも一時的なもので、根本的な治療にはなりませんでした。周りからは「そういう付き合いをしていく年齢だよ」とも言われましたが、痛み止めを服用しながらやり過ごす毎日には辛く、35年間続けてきた大好きなゴルフをここであきらめることもできませんでした。

そんな時、夫が仕事先で訪ねた薬局で松田先生の評判を聞きつけ「一度診てもらおう」と勧めてくれたんです。



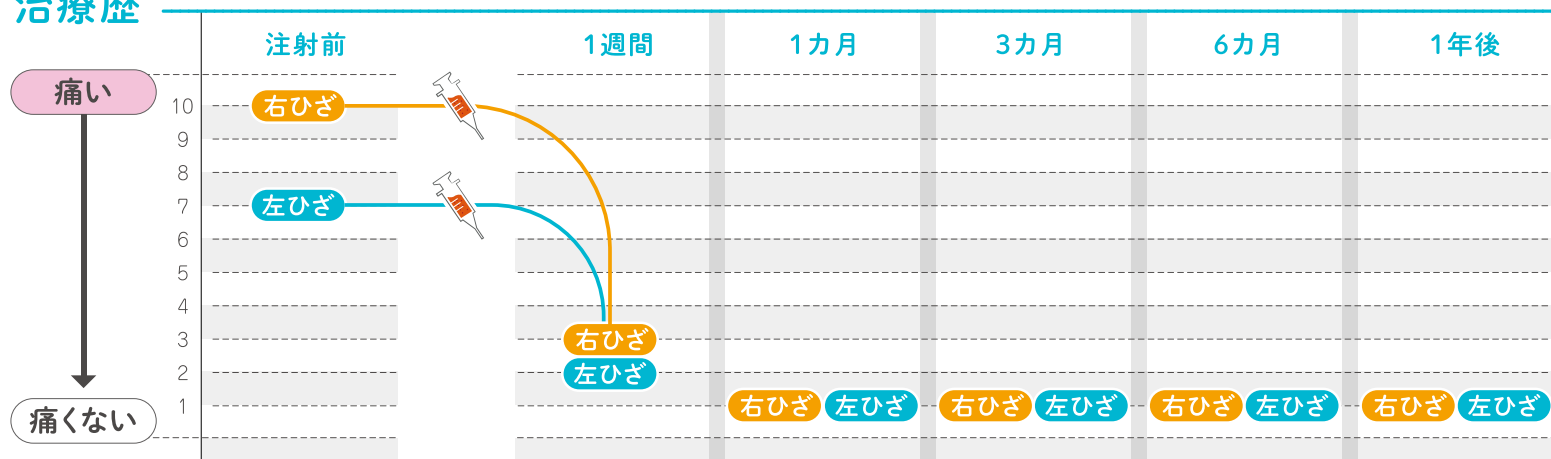
大好きなゴルフがまたできる！ それがなによりの幸せに

年が明け、松田先生のもとで治療が始まりFD注射を受けたのが2月。それから約半年間は理学療法を取り入れ、衰えたひざ周りの筋力を取り戻すトレーニングやストレッチに励みました。まつだ整形外科クリニックは先生をはじめ、スタッフの誰かが思いやりにあふれていて、週2回のリハビリに通う時間も楽しみのひとつなんです。

治療を受けるまでは立っているのも辛かった右ひざの痛みが今ではすっかり解消され、動きがとてもスムーズになりました。身体も軽くなったように感じます。先生からは「もう何をしても大丈夫！」とお墨付きもいただいたので、最近では自転車や縄跳び、ジョギングもしています。そしてなにより、唯一の趣味だったゴルフへの復帰が叶い、今は本当に幸せです。



治療歴



「スポーツを続けたい」 再生医療をひとつの希望に

治療歴：APS療法（2018年9月）

症 状：左ひざ：変形関節症／半月板断裂／半月板損傷

茂木 智 さん 50代
営業職／趣味：トライアスロン



事故が原因で 25年抱え続けたひざの痛み

28歳の時に出場したオートバイレースでクラッシュ事故に巻き込まれ、全身に大けがを負いました。特に左ひざの損傷は激しく、骨の移植手術が必要なほど。それ以来、慢性的なひざの痛みにも耐えながら生きてきました。

当時診てもらった医師からは「この状態でスポーツなんて考えられない」と言われましたが、回復後はさまざまなスポーツに挑戦してきました。40歳を過ぎたころからトライアスロンに目覚め、その6年後には「世界一過酷な競技」と称されるアイアンマンレースを完走。以降もさまざまなレースに挑戦しては上位入賞を果たしてきました。しかし事故から25年、常に痛みを抱えてきたひざはついに限界を超えてしまったんです。日常の歩行さえも困難となり、さまざまな医師に「もう手術しかない」と言われてしまいました。

夢は、競技者として再び スタートラインに立つこと

松田先生との出会いは私に希望をくれました。あらゆる医師に「手術しかない。術後のスポーツは難しい」と言われたひざは末期に近い状態でしたが、「スポーツを続けたい」という気持ちに松田先生は寄り添い、自己血液を使った再生医療「APS療法」を提示してくれたのです。

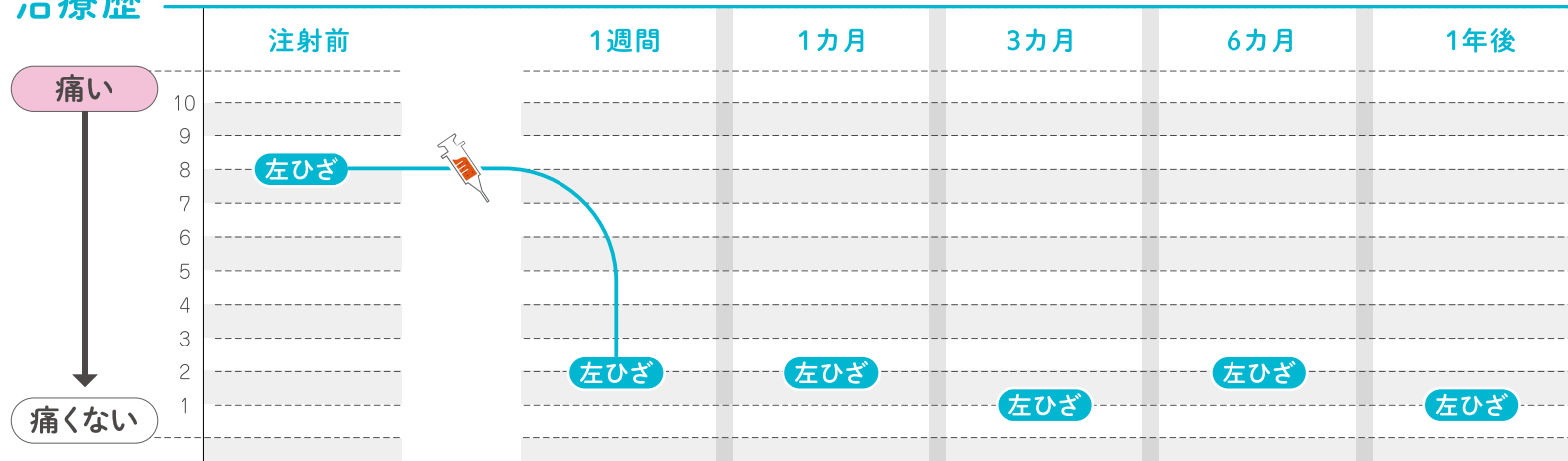
「自己血液由来でリスクも少ない、受けない理由はない！」少しでも良くなればと思い治療を決めました。

驚くことにAPS注射から約3週間で、ひざの痛みはほぼなくなっていました。手すりなしにはできなかった階段の上り下りが楽にできるようになった時の感動を今も覚えています。この治療を受けたことで「競技者としてもう一度スタートラインに立ちたい」という夢が叶い、次の大会出場の目標もできました。

夢が叶い、長年の痛みから解放してくれた再生医療を、同じ悩みを持つ人にも知ってもらえたらと思います。



治療歴



ひざのこと、健康のことお気軽にご相談ください。



まつだ整形外科クリニック
MATSUDA Orthopedics Clinic



📍 埼玉県熊谷市弥藤吾 180-1
☎ 048-567-0753
🌐 <https://matsuda-seikei.jp>



健康スポーツクリニック
MEDICAL SPORT CLINIC



📍 埼玉県熊谷市弥藤吾 122-1
☎ 048-501-5656
🌐 <https://kenspo.info/clinic>



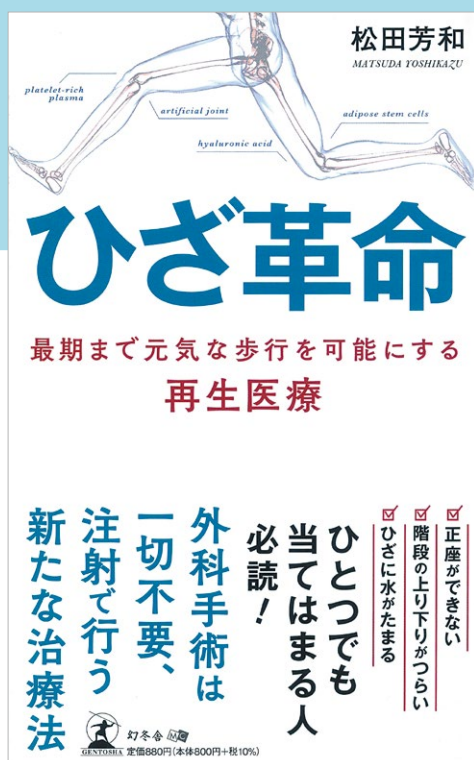
再生医療専用ダイヤル TEL. 048-598-7400 (月～金 9～18時、土 9～17時)

ベストセラーランキング
第1位

三省堂書店 大宮店 実用書
2021年6月28～7月4日

ひざ痛に悩むすべての人へ

『ひざ革命』 ～最期まで元気な歩行を
可能にする再生医療～



松田 芳和(まつだ整形外科クリニック院長)著

800円(税込880円) 幻冬舎

お求めは「カフェまつぼっくり」
または「Amazon」にて。



最新の治療法や、
ひざ痛を解消するための
知識・方法を具体的に
解説しました!

